

総合事業の評価項目の見直しについて

1 評価項目の見直しについて

(1) 現在の評価項目

総合事業開始に合わせ、国が平成 28 年 5 月に新たな評価指標を示したことを受け、本市の評価項目の見直しを行った（平成 29 年度の事業実施分から適用）。

- I 地域づくりを含む全体評価（16 項目）
- II 介護予防・生活支援サービス事業評価（9 項目）



(2) 新たな評価項目

介護保険法の改正（令和 2 年 6 月）を踏まえ、国が令和 3 年 9 月に新たな評価指標を示したことを受け、本市の評価項目の見直しを行う（令和 3 年度の事業実施分から適用）。

- I 地域づくりを含む全体評価（14 項目）[一部改正]
- II 介護予防・生活支援サービス事業評価（9 項目）[一部改正]
- III 一般介護予防事業評価（13 項目）[新設]

2 評価の仕方

これまで通り、以下の 3 つの指標に基づき、市が総合事業についての状況を確認し、4 段階評価を基本とした自己評価を行った上で、地域密着型サービス等運営審議会で審議いただき、最終的な行政評価とする。

- ・ストラクチャー指標【定性】（実施体制）
- ・プロセス指標【定性】【定量】（企画立案、実施過程）
- ・アウトカム指標【定量】（事業の成果）

- 4 点：できている
- 3 点：ある程度できている
- 2 点：あまりできていない
- 1 点：まったくできていない

3 見直しの根拠

(1) 介護保険法第 115 条の 45 第 5 項（令和 2 年 6 月改正）※令和 3 年 4 月 1 日施行

市町村が地域支援事業を行うに当たっては、介護保険等関連情報その他必要な情報を活用し、適切かつ有効に実施するよう努めるものとする。

(2) 地域支援事業実施要綱（厚生労働省老健局長通知 令和 3 年 9 月 21 日最終校正）

別添 4 「総合事業の事業評価」【参考資料 3-2 参照】

令和3年度以降の総合事業の評価項目について

I 地域づくりを含む全体評価 【一部改正】

指標名	指標内容	国実施要綱における評価指標の視点	市評価項目(案)	評価方法(案)
スタッフ指標 【定性評価】		変更なし		
プロセス指標 【定性評価】		変更なし		
プロセス指標 【定量評価】	事業を効果的かつ効率的に実施するための企画立案、実施過程等に関する指標	<p>【削除】</p> <p>①介護予防に資する住民主体の通いの場への65歳以上の参加者数及び割合 (参加者割合=参加者数÷高齢者数)</p> <p>②介護予防に資する住民主体の通いの場の状況【削除】</p> <p>＜その他指標＞【削除】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防に関する講演会、相談会等の開催回数・参加者数 ・介護予防に関するイベント等の開催回数 ・介護予防に関するボランティア育成のための研修会の開催回数・育成数 	<p>(7) 介護予防に資する住民主体の通いの場への65歳以上の参加者数</p> <p>(8) 介護予防に資する住民主体の通いの場の設置個所数</p> <p>(9) 介護予防普及啓発事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ①出前講座の開催回数と参加者数 ②介護予防活動支援の回数と参加者数 ③担い手育成のための研究会の開催回数と参加者数 	<p>(7) 及び(8)については、以下の4段階により評価し、具体的状況(時系列・他市町村等比較含む)を記載する。</p> <p>4点：(7)、(8)とも前年度を上回っている</p> <p>3点：(7)のみ前年度を上回っている</p> <p>2点：(8)のみ前年度を上回っている</p> <p>1点：(7)、(8)とも前年度を下回っている</p> <p>(9)については、以下の2段階により評価し、具体的状況を記載する。</p> <p>4点：前年度実績を上回っている</p> <p>1点：前年度実績を下回っている</p> <p>プロセス指標【定量評価】全ての項目の点数を平均したものをプロセス指標【定量評価】の評価とする。</p>
アウトカム指標 【定量評価】	事業成果の目標に関する指標	<p>①～③変更なし</p> <p>④健康寿命延伸の実施状況【新設】</p> <p>＜指標の例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護2以上の年齢調整後認定率、その変化率 ※客観的評価のため、健康寿命の補完的指標を参考 ※要介護度の分布や新規で要介護認定を受けた要因の確認も併せて必要 <p>介護予防を含む介護保険事業全体を運営する上での目標である、健康寿命延伸の実現状況の評価に活用する。毎年の評価に加え、中期的な変化の評価も望ましい。</p> <p>⑤日常生活圏域ニーズ調査等による健康に関連する指標の状況【変更なし】</p> <p>＜健康関連指標の例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主観的健康観 ・社会参加の状況 ・運動機能 ・口腔機能 ・栄養状態 ・認知機能 ・閉じこもり ・うつ など <p>◇複数年度ごとに任意の時点における地域の健康に関連する指標を集計し、時系列評価、地域間や他市町村との比較を行うことで、住民主体の介護予防活動の取組状況と、生活支援の充実状況の評価に活用する。</p> <p>⑥住民の幸福感の向上【新設】</p> <p>＜指標の例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の幸福度の変化率(日常生活圏域ニーズ調査に調査項目あり) <p>◇住民が生きがいのある自分らしい人生を送るという介護予防の目的の達成状況を評価する観点から、住民の幸福感の評価に活用する。</p> <p>⑦⑧変更なし</p>	<p>(3) 要介護2以上の認定率</p> <p>(4) 日常生活圏域ニーズ調査等による健康に関連する指標の状況</p> <p>＜健康関連指標＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主観的健康観 ・社会参加の状況 ・運動機能 ・口腔機能 ・栄養状態 ・認知機能 ・閉じこもり ・うつ ・幸福感 	<p>(3) については、以下の3段階により評価し、具体的な状況を記載する。</p> <p>4点：前年度実績を上回っている</p> <p>3点：概ね前年度実績と同様である</p> <p>1点：前年度実績を下回っている</p> <p>(4) については、3年毎に実施する日常生活圏域ニーズ調査の指標について、以下の3段階により評価し、具体的状況(時系列・地域間比較含む)を記載する。</p> <p>4点：前回の調査時より改善している</p> <p>3点：概ね前回と同様である</p> <p>1点：前回の調査時より悪化している</p>

Ⅱ 介護予防・生活支援サービス事業評価 【一部改正】

指標名	指標内容	評価指標の視点 (国実施要綱)	市評価項目(案)	評価方法
ストラクチャー指標 【定性評価】		変更なし		
プロセス指標 【定性評価】		①～⑤変更なし ⑥要支援者及び介護予防・生活支援サービス事業対象者及び継続利用要介護者の個人情報共有されることについて、十分な説明を行い、同意を得ているか。【一部改正】	(6) 要支援者及び介護予防・生活支援サービス事業対象者の個人情報が共有されることについて、十分な説明を行い、同意を得ているか。 ※継続利用要介護者については、本市で対象となる事業がないため、集計しない。	(6) について、以下の4段階により評価し、具体的状況を記載する。 4点：できている 3点：ある程度できている 2点：あまりできていない 1点：できていない 以上の得点を平均したものをプロセス指標【定性評価】の得点とし、本項目全体の評価も記載する。
プロセス指標 【定量評価】	事業を効果的かつ効率的に実施するための企画立案、実施過程等に関する指標	①介護予防ケアマネジメント依頼書受理件数【変更なし】 ◇年度ごとに年間の介護予防ケアマネジメント依頼書受理件数を集計し、実施状況を評価する。 ②介護予防・生活支援サービス事業の実施状況【一部改正】 ◇年度ごとに年間の各種事業の実施状況を集計し実施回数及び利用者数により実施状況を評価する。 ◇訪問型サービス、通所型サービス、生活支援サービス別に実施回数及び利用者数(要支援1、要支援2、介護予防・生活支援サービス事業対象者、継続利用要介護者別)を集計することが望ましい。	(7) 介護予防・生活支援サービス事業の実施状況 ※継続利用要介護者については、本市で対象となる事業がないため、集計しない。	訪問型・通所型サービスとともに、(7) については、介護予防ケアマネジメントの利用者数及び実施回数等を以下の3段階により評価し、具体的状況(時系列比較を含む)を記載する。 4点：多様なサービス(を位置付けている計画)の実績が前年度を上回っている 1点：多様なサービス(を位置付けている計画)の実績が前年度を下回っている 4点：計画を下回るペースで推移している 3点：概ね計画通りに推移している 1点：計画を上回るペースで推移している 令和2年度末で多様なサービス(生活機構向上サポート事業、健康運動チャレンジ事業)を廃止したことから、以上の得点をプロセス指標【定量評価】の得点とする。
アウトカム指標 【定量評価】	事業成果の目標に関する指標	①主観的健康感【変更なし】 ◇年度ごとに年間の介護予防・生活支援サービス事業の利用者について、利用前後の主観的健康感の変化を集計し、維持・改善割合(事業利用者のうち利用後に主観的健康感が維持・改善された者の割合)により介護予防・生活支援サービス事業の効果を評価する。	(1) 主観的健康感等	主観的健康感、要介護認定区分、基本チェックリストの該当項目の変化を総合的に勘案して以下の3段階により評価し、具体的状況(時系列・地域間比較含む)を記載する。 4点：維持・改善率が前年度実績を上回っている 3点：維持・改善率が前年度概ね同程度である 1点：維持・改善率が前年度実績を下回っている 他の評価方法との整合性を図るため、以上の得点をアウトカム指標【定量評価】の得点とする。 ※「2 総合評価(介護予防・生活支援サービス事業評価)」の全体の評価も記載する。

Ⅲ 一般介護事業評価【新設】

指標名	指標内容	評価指標の視点 (国実施要綱)	市評価項目(案)	評価方法
ストラクチャー指標 【定性評価】	事業を効果的かつ効率的に実施するための実施体制等に関する指標	一般介護予防事業の実施に当たり、行政内の他の部門と一般介護予防事業の重要性を共有し、効果的・効率的な事業実施のために、連携する体制を構築できているか。	(1) 一般介護予防事業の実施に当たり、市関係部署(健康づくり推進課、国保医療年金課等)と一般介護予防事業の重要性を共有し、効果的・効率的な事業実施のために、連携する体制を構築できているか。	以下の4段階により評価し、具体的状況を記載する。 4点:できている 3点:ある程度できている 2点:あまりできていない 1点:できていない 以上の得点をストラクチャー指標【定性評価】の得点とする。
プロセス指標 【定性評価】	事業を効果的かつ効率的に実施するための企画立案、実施過程等のプロセスに関する指標	<p>①行政内部での連携 ＜指標の例＞ ・行政内の他部門と連携して介護予防の取組を進める体制の整備状況(会議等) ・行政内の他部門と連携した取組の実施状況(イベントの実施等) ・他部門が行う通いの場や、その参加状況の把握</p> <p>◇介護予防の取組の効果的な推進の観点から、福祉や健康増進、市民協働、教育、産業振興、都市計画等の様々な分野の担当部局との連携が必要であるため、その連携体制と連携した取組の実施状況を評価する。</p> <p>②地域の多様な主体との連携 ＜指標の例＞ ・多様な主体と連携して介護予防の取組を進める体制の整備状況(会議・イベントの実施等) ・多様な主体が行う通いの場や、その参加状況の把握</p> <p>◇介護予防の取組の効果的な推進の観点から、自治会や医療・介護等関係機関、NPO法人、さらに民間企業、大学等も含めた多様な主体との連携が重要であるため、その連携状況を評価する。</p> <p>③保健事業との一体的な実施 ＜指標の例＞ 介護予防と保健事業の一体的な実施の実施状況</p> <p>◇介護予防の取組の効果的な推進の観点から、医療保険制度における保健事業との一体的な実施が重要であるため、その実施状況を評価する。</p> <p>④関係団体との連携による専門職の関与 ＜指標の例＞ ・関係団体との連携状況(会議の実施等) ・専門職の介護予防への関与状況</p> <p>◇介護予防の取組の効果的な推進の観点から、多様な専門職(運動・口腔・栄養分野等)の関与が重要であるため、各分野の関係団体との連携状況を評価する。</p> <p>⑤通いの場への参加促進(ポイント等) ＜指標の例＞ ・参加促進に向けたポイント等の取組の実施状況</p> <p>◇高齢者の通いの場への参加を促す観点から、参加促進に向けた取組(ポイント等)を評価する。</p> <p>⑥参加促進のためのアウトリーチの実施 ＜指標の例＞ ・対象者把握の取組の実施状況 ・参加促進に向けたアウトリーチの取組の実施状況</p> <p>◇通いの場に参加していない者の参加を促すことの重要性に鑑み、参加促進のためのアウトリーチ対象者の把握とアウトリーチの取組を評価する。</p>	<p>(1) 市関係部署間の連携状況 ＜指標＞ ・関係部署と連携して介護予防の取組を進める体制の整備状況 ・関係部署と連携した取組の実施状況 ・関係部署が行うつどいの場や、その参加状況の把握</p> <p>(2) 地域の多様な主体(地域包括支援センター、地区社会福祉協議会、町(内)会等)との連携状況 ＜指標＞ ・多様な主体と連携して介護予防の取組を進める体制の整備状況 ・多様な主体が行うつどいの場や、その参加状況の把握</p> <p>(3) 介護予防と保健事業の一体的な実施の実施状況</p> <p>(4) 関係団体との連携による専門職の関与 ＜指標＞ ・関係団体との連携状況 ・専門職の介護予防への関与状況</p> <p>(5) つどいの場への参加促進の状況 ＜指標＞ ・参加促進に向けたポイント等の取組の実施状況</p> <p>(6) 参加促進のためのアウトリーチの実施の状況 ＜指標＞ ・対象者把握の取組の実施状況 ・参加促進に向けたアウトリーチの取組の実施状況</p>	<p>(1)～(6)について、以下の4段階により評価し、具体的状況を記載する。 4点:できている 3点:ある程度できている 2点:あまりできていない 1点:できていない 以上の得点を平均したものをプロセス指標【定性評価】の得点とする。</p>

指標名	指標内容	評価指標の視点 (国実施要綱)	市評価項目(案)	評価方法
プロセス指標 【定性評価】	事業を効果的かつ効率的に実施するための企画立案、実施過程等のプロセスに関する指標	<p>⑦担い手としての参加促進 ＜指標の例＞ ・通いの場等の担い手を育成するための研修の実施状況 ・有償・無償ボランティア等の推進に向けた取組の実施状況</p> <p>◇通いの場への担い手としての参加など、役割のある形での取組が重要であるため、担い手としての参加を促進するための取組を評価する。</p> <p>⑧介護予防の企画・検証等を行う体制の整備 ＜指標の例＞ ・介護予防の企画や検証等を行う協議体の設置状況 ・協議会における検証や改善の実施状況</p> <p>◇PDCAサイクルに沿った取組を推進するためには、企画・検証等を行う体制が重要であるため、その体制整備や検証等の実施状況を評価する。</p> <p>⑨データの活用に係る取組の促進 ＜指標の例＞ ・分析等の実施状況を評価</p> <p>◇人口や認定率、通いの場の設置状況、介護等のデータを分析した上で、それに基づく対策を実施することが重要であることから、それらの取組状況を評価する。</p> <p>⑩通いの場に参加する高齢者の状態の把握の実施 ＜指標の例＞ ・通いの場に参加する高齢者の状態の把握</p> <p>◇通いの場の成果を評価するに当たって、高齢者の状態を把握することが望ましいが、現時点ではデータ収集等の体勢が整っていないので、その取組を評価する。</p>	<p>(7) 担い手としての参加促進の状況 ＜指標＞ ・つどいの場等の担い手を育成するための研修の実施状況 ・有償・無償ボランティア等の推進に向けた取組の実施状況</p> <p>(8) 介護予防の企画・検証等を行う体制の整備 ＜指標＞ ・介護予防の企画や検証等を行う協議体の設置状況 ・協議会における検証や改善の実施状況</p> <p>(9) データの活用に係る取組の促進 ＜指標＞ ・分析等の実施状況</p> <p>(10) つどいの場に参加する高齢者の状態の把握の状況 ・つどいの場に参加する高齢者の状態の把握</p>	<p>(7)～(10)について、以下の4段階により評価し、具体的状況を記載する。</p> <p>4点：できている 3点：ある程度できている 2点：あまりできていない 1点：できていない</p> <p>以上の得点を平均したものをプロセス指標【定性評価】の得点とする。</p>
アウトカム指標 【定量評価】	事業成果の目標に関する指標	<p>①健康寿命延伸の実施状況 ＜指標の例＞(高齢者全体を評価) ・要介護2以上の年齢調整後認定率、その変化率 ※客観的評価のため、健康寿命の補完的指標を参考 ※要介護度の分布や新規で要介護認定を受けた要因の確認も併せて必要</p> <p>◇介護予防を含む介護保険事業全体を運営する上での目標である、健康寿命延伸の実現状況の評価に活用する。毎年の評価に加え、中期的な変化の評価も望ましい。</p> <p>②住民の幸福感の向上 ＜指標の例＞(高齢者全体を対象とする評価) ・住民の幸福度の変化率(日常生活圏域ニーズ調査に調査項目あり)</p> <p>◇住民が生きがいのある自分らしい人生を送るという介護予防の目的の達成状況を評価する観点から、住民の幸福感の評価に活用する。</p> <p>③通いの場をはじめとする社会参加の拡大 ＜指標の例＞ ・通いの場(全体・週1回以上)の参加率(実数、延べ数)、その変化率、週1回以上開催の通いの場の有無 ・社会参加(就労、ボランティア、通いの場等)の状況</p> <p>◇経年比較が可能な方法により通いの場の参加率を測定。参加頻度も評価する観点から、延べ数についても評価することが望ましい。加えて、従来の場に限らず、就労等を含めた多様な社会参加状況</p> <p>④通いの場に参加する高齢者の状態の変化 ＜中長期的な課題＞</p> <p>◇通いの場の効果等を評価する観点から、今後、通いの場に参加する高齢者の状態(IADL等)の維</p>	<p>※「I地域づくりを含む全体評価」で用いるため、ここでは評価しない</p> <p>※「I地域づくりを含む全体評価」で用いるため、ここでは評価しない</p> <p>(1) つどいの場をはじめとする社会参加の状況 ＜指標＞ ・つどいの場の実施状況(箇所数、参加者数、頻度、参加率) ・社会参加の状況(ボランティア活動、就労的活動)</p> <p>(2) つどいの場に参加する高齢者の状態の変化 ＜指標＞ ・体力測定結果の状態の変化</p>	<p>(1)、(2)について、以下の3段階により評価し、具体的な状況を記載する。</p> <p>4点：前年度実績を上回っている 3点：概ね前年度実績と同様である 1点：前年度実績を下回っている</p> <p>以上の得点を平均したものをアウトカム指標【定量評価】の得点とする。</p>